Vol.38　単音のミュートバッキングを弾いてみる　～その 2～

『10 分トレ』vol.38、始めていきましょう。

引き続き、ミュートバッキング系のフレーズについてです。

前回の譜例は、コード進行に「そのキーのダイアトニックコード以外のコード」が出てこないパターンでした。

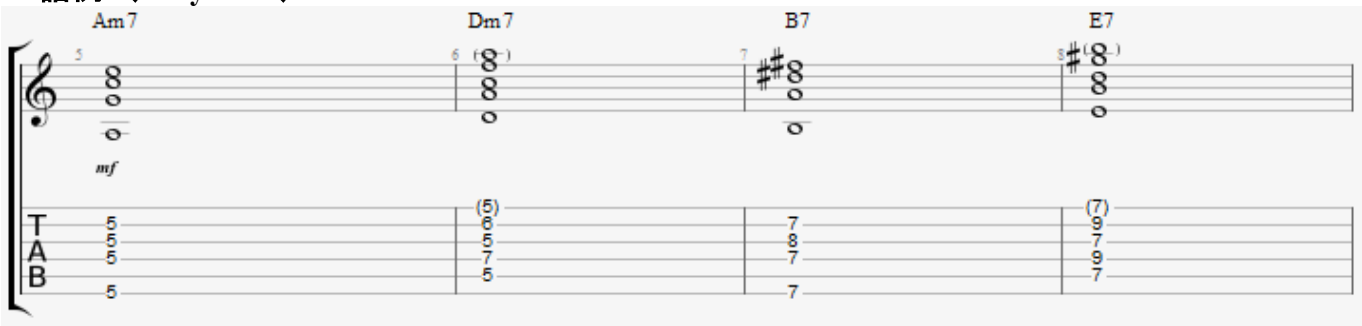
なので、使うスケール(音使い)をほぼ変えることなく、一定のポジション内に留まることが出来ましたね。

極端な話、前の譜例であれば、何も考えずに適当に弾いていても、十分聴くに堪えるフレーズになるはずです。

と、言う事で今回は、「そのキーのダイアトニックコード以外のコード」が“出てきた時”の対処法を見ていきましょう。

題材となる進行は以下です。

譜例 1、key=Am、Ⅰ m7－Ⅳ m7－Ⅱ 7－Ⅴ 7



見ての通り、3 小節目と 4 小節目のコードが Am キーのダイアトニックコードから外れていますね。

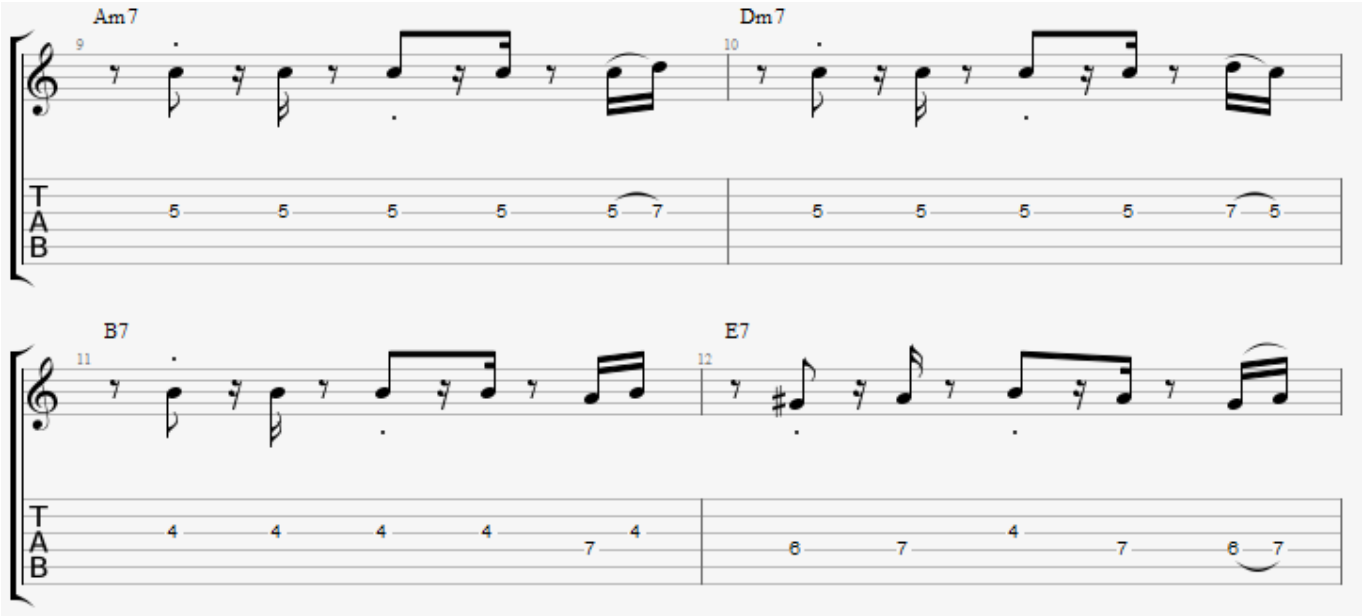
E7 は、マイナーキーのドミナント 7th(V7)として普通に出てくるコードですが、ここでは一応、「ナチュラルマイナースケールからは外れるコード」として見ておきましょう。

これら 2 つのコード上では、仮にソロを弾く場合であれば特定のスケールを使うのですが、ここでそれを考えると話がややこしくなるので、主に各コードのコードトーンを狙う事にします。

では、譜例は以下になります。

Copyright (C) 2016 shunichi onuma All Rights Reserved

譜例 2



前回の譜例とは違い、ゴーストノートの指定を抜いているので、自分なりに考えて自由に入れてみて下さい。

音的には B7 と E7 の所では、A マイナーペンタからは外れた音を弾いていますね。

B7 上では B 音(root)と A 音(m7th)、E7 上では G♯音(M3rd)と A 音(P4th)と B 音(P5th)を弾いています。

この様に弾くと、コードが切り替わった時に、フレーズもそれに対応している事が良くわかると思います。

実際の所、コード進行によって、何をどこまで対応させればいいのか？は変わって来るのですが、譜例 2 の様なコードトーンベースでの対応の仕方が分かっていれば、そこまでおかしなことにはならないでしょう。

こう言った考え方は、リードプレイを含め、分析のし辛いコード進行への対応の基本です。

曲を弾いていて良くわからないコードが出てきたら、まずはコードトーンを使ってフレーズを探ってみましょう。

では、今回は以上になります。

ありがとうございました。

大沼

Copyright (C) 2016 shunichi onuma All Rights Reserved